

2016 出展票『都内の山菜を広める会』

1. 出展者

チーム名	都内の山菜を広める会
出展法人	国際薬膳協議会
実行責任者（リーダー）	中村信也（東京家政大学 家政学部 教授 医学博士、 国際薬膳協議会 理事長・日本作家クラブ 理事長）
責任者補佐（副リーダー）	中崎巧（国際薬膳協議会 事務局長）
責任者補佐（副リーダー）	小林洋子（国際薬膳協議会 事務局長補佐）
協力スタッフ	橋口修（まほろば東京融合療法研究会 副理事長） 榎本悦子（桂凜薬膳会 副会長）
協力的法人	まほろば東京融合療法研究会、桂凜薬膳会、

2. 出展内容

1) 「見る」プログラム

<概要>

「都内は山菜の宝庫」というと驚く方々が多い。都内はいたるところに山菜が見られ、隙あらば一家繁栄の場としようという山菜の意気込みが窺いしれます。山菜たちは、大都会の中でもわずかの隙間を見つけては芽を出し成長してゆきますが、車の行き交う道路の脇に1センチほどの隙間で大きくなっている根性山菜をみることも稀ではありません。

都内の緑は管理が行き届きそれなりに優雅ですが、つつじ、アベリア、アジサイなど数種の植栽しかなく、人工的、画一的であり、自然さに欠けています。明治神宮の森のように都内をもっと自然に近い形で緑化すれば、わずかな空間も都会のオアシスになるでしょう。

国際薬膳協議会は薬膳の普及を図る会です。その根拠理論は陰陽五行論です。この理論は陰陽論と五行論の合体ですが、ともに全てのものは循環し一定の物はなく昼、夜、春夏秋冬と循環しているという思想です。ゆえに、ヒトは自然を敬い、自然に沿った生活をするのがその真髄です。食事はそこで獲れた季節ものを食べることが健康をもたらすといえます。山菜は季節物の代表で旬の物の典型です。当協議会は薬膳の一環として山菜検定を実行していて、山菜の普及にも力を入れています。東京という世界最大の都会でも窓辺にも公園にも山菜があふれ、自然を満喫できることになることを願って推進しています。

都民に山菜への興味をもってもらい、やがては自然あふれる街になるとの気概を展示から感じ取ってもらえれば幸いです。

2) 「体験」プログラム

<概要>

- 1 山菜は美しい、都内で頑張っている山菜の写真展、絵画展
- 2 万葉集などにみる山菜
- 3 ドングリの実物展示
- 4 山菜のオスとメスの見分け方
- 5 山菜や木の実あてのクイズを実施します！

※回答率8割以上に、博士の賞状を進呈いたします。

テーマ名	都内で頑張っている山菜を見つけよう	
対象とする学年	小学校高学年	
定員（1サイクル）	10名	
所用時間（1サイクル）	40分	
実施の日程と時間	日程：8日	時間：13～18時
	日程：9日～10日	時間：10～18時
人数制限の方法	先着順	